

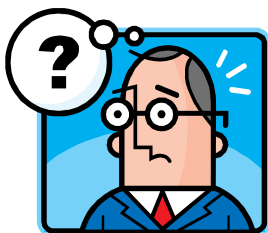
仕事の隠し味

今 年度任用替えにより、学校給食労務員から事務職へと異動になり早や 10 ヶ月以上が経ちました。仕事内容が180度転換した事に加え、仕事への取り組み方にも少なからず違いがあり、戸惑いを感じることも多々ありました。

こ れまでは決まった献立を作る中でも、その過程で日々仲間とコミュニケーションをとりながら様々な創意工夫をしておいしい給食作りに努めてきました。例えば、工程表には「ルーを作る」と記してあるだけでも、火を止めるタイミング・釜を冷やす時間・かき混ぜ方等々で“ダマ”のできかた(なめらかさ)も違ってきます。かきたま汁に「玉子をいれる」のも、流し込み方次第でフワッと仕上がります。共同作業だからこそ創意工夫や連携によりタイミングを計り、最良の状態の給食を提供できていたと思います。

や はり良い仕事をするためには、創意工夫という「隠し味」が必要だと肌身を持って感じています。給食の時はほとんどその日のうちに仕事が完結し、その時点で達成感も得られれば反省点も明らかになったので、『いつ、どのように創意工夫をすればよいのか』がわかりました。

し かし、今の事務仕事はその日で終わる短いものもあれば、通年、さらにはもっと長くかかって継続する仕事もあります。仕事が未完結の段階では反省点もわかりにくいので、『いつ、どのように創意工夫をすればよいのか』がとても難しく感じます。



と りわけ事務職は業務範囲が広く、人事異動も頻繁です。長く経験している人はそれもわかるので、人が変わるたびにそれがリセットされてしまっただけでは、私のような新しく来た人は目の前の仕事を処理することに精いっぱい、なかなか創意工夫を活かして良い仕事を続けることはできません。

そ れを解決するためには、やはり職員間のコミュニケーションが不可欠です。仲間同士で密接にコミュニケーションをとることによって、仕事の内容や課題を常に共有することができ、『いつ、どのように創意工夫をすればよいのか』も、人が変わっても受け継がれていくと思います。

現 在の自分は幸い、困っているときには仕事の手を止めてアドバイスを貰えたりしますが、自分でも早く課題を共有し、仕事に創意工夫という「隠し味」を振りかけてみたいと思います。

こ ミュニケーションとは特別な才能がいるようなことではありませんが、組織として仕事をする上でとても大切なことです。これにより誰もが創意工夫する環境が整うということは、職員としての能力を発揮できることにもつながり、そういう市役所はきっと良い仕事ができる職場と考えます。

(秘書課 佐原 雅子)

暴論オピニオン (34)

三浦市政策経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。

常識的であることに捉われずに

常識は、誰もが当たり前で共有している価値観であり、その価値観を破る行為は非常識なこととして批判にさらされる。最近では、スポーツ選手による品格を欠く非常識な行為が紙面を賑わすようになっている。競技規則の

上に成り立つ競技である以上、それに反しない限り結果が全てとの考えにも一理ある。しかし、世間一般には青少年の育成に大きな影響力を持つ競技者は、常識をわきまえるべきとの期待的な考えも依然根強い。

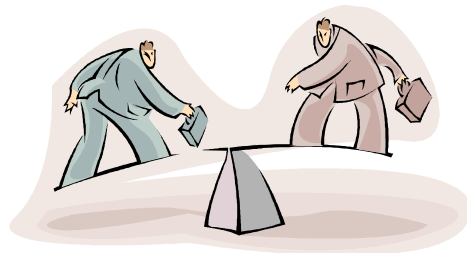
世間から常識的な言動を期待されるのはスポーツ選手ばかりではない。一般的に公共性の高い存在ほど世間からは常識的であることを求められ、公務員は正に常識的であることが強く望まれる職業である。あえて意識をしていないまでも、多くの職員は、業務に従事する上では常識的でなくてはならないとの認識に基づいて日々の執務をこなしているのではないだろうか。

ところで、非常識な言動といわれるものは、本当に非常識なものばかりなのだろうか。当たり前にも誰もが共有している価値観を共有していないがための言動は、正しく非常識な言動である。しかし、そうすることが非常識であると承知の上で、目的を持ってあえてその言動に及ぶこともあるだろう。先のスポーツ選手の例で言えば、選手団の正装に独自の着こなしをした五輪代表選手の例は前者であり、プロボクシングの試合前に対戦相手への心理的効果や興業の宣伝効果を期待して行うパフォーマンス等が後者にあたるだろうか。後者は、アマチュアスポーツ



界ではスポーツマンシップとの関係から望ましいこととは評価されないかもしれない。しかし、これは一見非常識のようでありながら、実は常識的な判断に基づいて、自らの置かれる状況を少しでも有利にするた

めに周到に計算された上での言動でもあるのではないのか。



このようなパフォーマンス的なことを全面的に肯定するつもりはない。しかし、仮に現状において他者と比較して圧倒的に不利な状況にあるとして、同様の常識的な活動を続けていてはこれを逆転できる可能性は高まらない。不利な形勢を劇的に変化させる或いは少しでも有利な状況を作り出すには、一見非常識とも言える方法も必要であるという点について、我々の業務に照らしても学ぶべきところはあるのではないだろうか。

非常識であるとの謗りをおそれ常識的であることに努めるあまり、効果的な策を講ずることができない状況があるとすれば、一見非常識ともとれるような手法を用いても常識の殻を破り、貪欲に成功を追い求めるべきである。たとえ非常識ととられるおそれがあるにしても、市全体の利益という明確な目的のために念入りに検討した上で練出す一手ならば、それは市民の期待を裏切るものではないはずだ。

「ぼっこすこせえる」とは・・・神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。

次号(第44号)は3月18日発行です。



3S市長の経営視点

三浦市長の吉田ひでおです。今、早咲きの桜として知られる『河津桜』が見頃を迎えています。三浦海岸駅から小松ヶ池公園までの約1kmの間に、約1,000本の河津桜が美しく咲いており、一足早い『春』を感じさせてくれます。

この河津桜は平成12年に三浦海岸まちなみ事業協議会の皆さんが植樹を始め、平成15年からは『三浦海岸桜まつり』を開催、来遊者も年々増加し、去年は22万人もの方々にお越しいただきました。

更に、昨年からは麒麟ビール(株)横浜支社・京浜急行電鉄(株)・三浦市の共同事業“三浦のマグロと河津桜を応援し隊”(詳細は京浜急行電鉄(株)ホームページ<http://www.keikyu.co.jp/train/event/maguro/kawazu/>をご覧ください。)がスタートし、様々なサービスでこの桜まつりを盛り上げてくれています。

このように、地元の皆さんのまちづくりの努力に加え、三浦を支えてくださる企業の力も合わされば、鬼に金棒!これからも色々な形で事業が展開していくと共に、このような事例が三浦市の各所で巻き起こることを期待しています。